

# 四次元の数学原理

イントロダクションと注釈付きの参考文献

ヴァルム・ヴォタン著

# 四次元の数学原理

イントロダクションと注釈付きの参考文献

ヴァルム・ヴォタン著

## 目 次

数学的な宇宙論：0- 19=13：20	3
注釈つきの、学習用に段階別にした参考文献	7
1. 『13の月の亀：すべての人類のための生まれながらの時間』	8
2. 『13の月の動き：ドリームスペルの手引き』	8
3. 『パカル・ヴォタンのテレクトノン』	9
4. 『ドリームスペル、時間船地球2013の旅』	10
時間の構造的な起源	11
根源時間原子とカラーキューブ	
時間の根源言語	12
1. 13単位の周期定数、ウェイブスペル	
2. ドリームスペルの色彩と調波 (0- 19=4+1)	
時間の根源的なマンダラ	15
時間の根源母体あるいは子宮のマンダラ	
—ドリームスペル・オラクルボード (お告げ盤)	
時間の根源的な実現あるいは生成のマンダラ	
—ドリームスペル・ジャーニーボード (旅程盤)	
円と四角：銀河の羅針盤と調波インデックス	
5. 『パカル・ヴォタンの呼びかけ、時間は四次元である』	20
3プラス1の惑星全体系の前提	
四次元の時間の数学原理の要約	
統合と応用：精神圏の到来	
倍音の第5の公式とヴェルナツキイの生物量定数、精神圏への移行	
ヴェルナツキイの生物量定数：時間における等式	
6. 『アルクトゥルス・プローブ、現在進行中の物語と報告』	25

数学的な宇宙論：0-19=13:20

どんな真の宇宙論も、純粋に数学的な公式で表現できるものでなくてはならない。数学的な公式の完全な表現が、その宇宙論である。

0-19が、四次元の数学的な宇宙論である。

前提：「四次元の時間の法則は、三次元の現象世界の共時性秩序を司る」（『時間の力学』基礎条件0.1.）

三次元の現象世界の共時性秩序を満たし、それを司る四次元は三次元より大きい。

三次元より大きいことで、三次元に対する唯一、適切な宇宙論は、0-19の四次元的な数学の宇宙論秩序として表現される四次元の数学的な宇宙論となる。

『四次元の数学原理』の目的は、四次元の数学的な宇宙論を、0-19コードの宇宙論的な数学として示すことにある。

宇宙論的な公式の2つの究極的な条件の包括的な定義：

{0, 19}：「{0-19}が私の掟。常に身近なところにある知恵のすべての表示がここにある。それは、銀河存在の網目と、時間における自然の秩序すべての形を理解する知恵である。ちょうど19が神の慈悲の力であるように、ゼロは充ちており、同時に空っぽであり、心の本質と、それが知り得るすべてのものを特徴づける」（「パカル・ヴォタンのテレクトノン」、15:97）

あらゆる数学は、心的な秩序である。四次元は、三次元の物理的・空間的な秩序を完了させる心的な秩序だ。したがって、ゼロは心的な能力に必要な表現である。

四次元の秩序は、数学的な秩序として純粋に表現される。四次元の宇宙論は、心的であり、物理的なものではない。心は物質に先んじる。

四次元のゼロは、三次元のゼロと同じではない：

三次元のゼロは、不完全な 10 進法の数学秩序のひとつの機能である。10 は、1-9 の位の力で、それは 10 の力の直線的な秩序、[10、100、1000 など] で増大する。したがって、真の指数の力を持っていない。ゼロから 9 は不完全か、あるいは四次元の真の力 (0-19) の半分以下である。

1-9 (0) の数学的な表記法は、直線的で、その秩序 1-9 (0) の数字の力それぞれの心的に感覚に訴える構成物と何の関係も持たない読み書き用の構成物である。そこには、2 によって表現される 2 の力がなく、「2」は、<二つ>を意味する心的な読み書き用の構成物である。同様のことは、おそらく「1」を除けば、「7」あるいは 10 進法のその他の数字についても言える。

0-19 コードの「ドット・バー (点・棒)」表記法は、純粹にホログラフィー的なコードで、ここでは表記そのものが、その数字の心的に感覚に訴える構成物と等しい。したがって、1=1 つのドット (点)、2=2 つのドット、3=3 つのドット、4=4 つのドット、5=1 本のバー (棒)、10=2 本のバー-19=3 本のバーと 4 つの点、となる。

四次元の 0-19 コードは、20 進法であり、0 (20) あるいは 20 (0) として表現される。位 (桁) の力を持つ 20 (0) は、真に柔軟な指数の力で、二進法秩序 {1、2、4、8、16、32、64、128- (0=20) n} に応じて単に直線的に増大するものではない。

四次元の 0 は、指数的な二進法の「増大」と同時に、「空虚」の位の力だと理解される。

「共時性秩序は、<水平的な>三次元の空間の秩序との関係において、<垂直的>であり、いまに中心を持ち、すべてを含む四次元秩序である。共時性秩序は、全体系の構成物として心的あるいは意識的にのみ理解できる」(『時間の力学』基礎条件 0.5.)

19 (3 本のバー、4 つのドット) は、心的に感覚に訴える構成物で、そのひとつの数字の中にすべての数字を含む。0 が最初の単位だと仮定された場合、19 は 20 進法秩序を完了させる。

13 (2 本のバー、3 つのドット) は、全体秩序 (0-19) を動かす周期定数である。周期定数 (13) がそのように定義されるのは、7 の力のおかげである。

周期定数 13 と指数的な定数 0 (20) の関係は、次のように表現される。13=0 (20-7)、0 (20)=13 (+7)。ここで 13 は 7 (1 本のバー、2 つのドット) という素数の力のひとつの機能 (関数)

で、13、 $f\{7\}$  と表現される。

1-13 の数列で、7 は対応する対になる等価単位のない中心の項で、次のように表現される：1-6  
(7) 8-13、ここで  $\{(1=13, 2=12, 3=11, 4=10, 5=9, 6=8) (7=7)\}$ 。したがって、(7)  
は、数列 1-13 における素数で、対にならない内部単位であり、それが 0 (20) との関係における  
13 の独自の力を定義する。したがって：

$$13, f\{7\} (+7) = 20 (0-7) = 13$$

13、 $f\{7\}$  は、宇宙論的な秩序  $\{(0-19) (=20)\}$  を定義するものでもある。13、 $f\{7\}$  によっ  
て動かされる  $0-19=260$  {いちばん下の位の 0 の上に、2 本のバー、3 つのドット = 13:20}。13:  
20 は、等式  $T(E) = Art$  における T を定義する素の (公約数を持たない) フラクタル比である。

要約：

四次元の時間の宇宙論的な秩序は、数学的に次のように表現される： $0-19=13:20$ 。ここで、変  
数の可能性の総計は、周期定数 13 と、動く  $20(0-19)$  の表記定数という二つの素因数の表現 = 260、  
あるいは 13:20 である。

$(0-19=13:20)$  は、宇宙論的な等式 (=フラクタルな等価) として定義され、260 の時間ベク  
トル・ポテンシャルの基本母体を確立し、それはフラクタル比の能力に応じて、無限の等級やレベル  
に拡張されうる。260 の時間ベクトルの基本母体は、有限ではあるものの無限に拡張可能な秩序、す  
なわち直線的な論理を超越し、進化的な開示の論理に包み込まれる、四次元の時間の宇宙論的な複合  
体を定義する。

四次元の時間の宇宙論を定義する、共時性秩序の宇宙論的な数学  $(0-19=13:20)$  は、根本的に  
非直線的なものである：今に中心を持ち、周期的フラクタルであり、放射性を持つ。

適切な表記コードで表現される  $0-19$  は、純粹に数学的な宇宙論： $0-19=13:20$  ( $0-19$  コー  
ド参照) としての四次元の宇宙論の可能性の全領域を要約する。

根本的に非直線的な四次元の数学的な宇宙論は、読み書き能力の以前、あるいはそれ以後にあるも  
のである。とは言うものの、進化的な発展のすべての可能性を使い果たしてしまった直線的な読み書  
き能力は、ベクトル・ポテンシャルを可能にする条件のひとつの集合として含まれる。これがゆえに、

(0- 19=13 : 20) の純粋な論証は、ホログラフィー的な図像形式、あるいはホログラフィー的な表記形式のどちらかであり、そこではひとつ (4+1) のカラーコードが、四次元の時間のホログラフィー的・周期的な形成特性を表現する (以下のドリームスペルのオラクルボード／お告げ盤、ジャーニーボード／旅程盤、調波と色彩を参照)。

#### 0- 19=13 : 20 の宇宙論の表示

正しく理解される宇宙論は、宇宙の進化と本質の描写であり、物事の普遍的な秩序と定義される。したがって、宇宙論は、単に物理的な描写にとどまることはできず、その必要から、道徳的かつ (三次元の視点からすると) 形而上学的な描写ともなる。伝統的に形而上学的だと理解されていたものは、四次元の視点からすると霊的な規範であり、それに対して三次元の視点は、それ自体が、下位の霊性であると定義される。

時間の法則の知識は、下位の霊性と霊的な規範をはっきりと区別する。下位の霊性である純粋な三次元的視点は、霊から物質への退縮 (involution) によって満たされる。これに対して四次元は、物質から霊の進化によって満たされる。包括的に反射的な四次元の視点は、霊から物質への退縮をその宇宙論として含んでいるが、その視点からすると、物質は心あるいは意識の進化に従属する。

これを心にとどめて、四次元の数学的な宇宙論 (0- 19=13 : 20) の 3 つの事例をここにあげてみよう。

1. 『ドリームスペルの「キンの書」: 自由意志に基づく銀河の叙事詩』。人間意識の三つの創世記 (竜、猿、月) の宇宙論が、260 の銀河の署名あるいは指令の組として要約されている。ここには (0- 19) の位の定数の情報、(13) の周期あるいは音の定数、そして (4+1) の色の定数が次の組の中に配列されている : 65 調波 (それぞれ 4 単位×65=260)、5 つの城 (それぞれ 52 単位×5=260)、そして 20 ウェイブスペル (それぞれ 13 単位×20=260)。「キンの書」の宇宙論は、さまざまな方法で応用可能だが、最も単純にそれがカレンダー周期を共時的にコード化することで、特定の日が 260 の指令あるいは署名のひとつによってコード化されることである。したがって、どの自己反射的な人間も、自分の基礎指令を誕生日に応じて決定することができる。これは、「銀河の署名を引き受けること」として知られている。

2. 『時間の力学』の 260 の基礎条件。それぞれ 13 の論理的な基礎条件がある 20 (0- 19) のひとつと連なりの組 (=260 の基礎条件) となる時間の宇宙論は、恒星マス (stellar mass / 宇宙空間、ポテンシャルティの領域) の進化との関係における、意識の進化としての時間の純粋な秩序を定義する。

周期的・包括的な全体を構成するこの『時間の力学』の 260 の基礎条件は、神中心で、平行的な時間ベクトルの放射状かつ非直線的な交差により多彩な潜在力に満ちた普遍的な宇宙論を説明する。その (0-19=13:20) の全体性において、『時間の力学』の 260 の基礎条件は、時間の宇宙論を時間の科学として明確に組み立て、四次元の時間の数学的な宇宙論を靈的にも有益で実践可能なものにする。

3. 『パカル・ヴォタンの預言、テレクトノン』。この時間の宇宙論の変種は、確定的な 7 年間の太陽惑星周期 (AD1993~2000 年) へと変換された平行的な時間ベクトルの放射状かつ非直線的な交差 (預言) だと定義される。これは、全部で 126 節 (7、9 の公約数を持つ、 $\{7 \times 18\} = \{9 \times 14\} = 126 / 7 + 9 = 16$ ) を持つ、(0-19) の項の組の中に文章の形で表現されている ( $16, \sqrt[4]{7+9}$ ) の立方体の要素については、以下の「テレクトノン」を参照)。預言的な指令として、(0-19) のテレクトノンは、周期定数 (13) の力の聖なる啓示であり、13 の月・28 (7×4) 日の暦、すなわち「生物圏から精神圏への移行」と時間の法則  $\{T(E) = Art\}$  の発見に必要な、13:20 の周波数の正しい生物学的な尺度として組み立てられている (以下の『13 の月の動き』を参照)。

注釈つきの、学習用に段階別にした参考文献

約 14 年間にわたる時間の範囲で、多かれ少なかれ任意の発見があったために、本書『四次元の数学原理』は、首尾一貫した書物の形にまとまっておらず、いくつかのテキストに分散している。未来の研究者は、これらのテキストから、体系的かつ簡潔で、実践的な『数学原理』を抽出できることだろう。

学習を目的として、『数学原理』の構成要素の原典は、多かれ少なかれ段階別の注釈つき参考文献という方法で配列されている。それらは、そこに発見された数学原理の性質を説明するものである。これに加えて、「時間の法則の発見」の背景を提供するのに役立つ一般的なテキスト、および特に「時間と生物圏」のテーマに関連するテキストが含まれる。

#### 1. 『13 の月の亀：すべての人類のための生まれながらの時間』

時間の法則  $\{T(E) = Art\}$  は、抽象的ではなく、生きた形あるいは不活性の形から切り離されたものでもない。空間の数学とは切り離されて表現されているにもかかわらず、時間は空間とは切

り離されておらず、空間の生きた形、不活性の形の中に組み込まれている。空間の形は、四次元の時間の投影的な放射幾何学の機能である。周期定数、13 の力は、亀の甲羅という規範的なパターンをコード化する。亀は生物圏の両生類や陸生動物の中でも、最も古い動物（は虫類）である。亀の甲羅の分かれ目と同様に、13 の月の数え方は、惑星地球の人々のあいだで太古の生まれながらの定数である。四次元の時間の数学的な宇宙論（ $0-19=13:20$ ）もまた、20 の手足の指と 13 の身体的主要関節を通して人間形態へとコード化されている。この導入テキストは、年少の子供たちが 20 進法とドリームスペル・コードを学ぶ際の指導マニュアルとして使うこともできる（以下、ドリームスペル、時間の言語、ドリームスペルの色彩と調波、人のホロンを参照）。

## 2. 『13 の月の動き：ドリームスペルの手引き』

太陰暦と時間の数え方の歴史的な背景、およびグレゴリオ暦の性質の分析が、この完全で調和的な「13 の月の暦」の分析の舞台を設定する。ドリームスペル・コードが「私たちの時代のための時間の新しい施し（体制）」（※訳注：日本語版『13 の月の暦・説明書』49 ページ。以下の文献ページ数は未出版のものを除き、日本語版による）であると決定的に述べているこのテキストは、13 の月のパルサー・コード(38 ページ以降)、「アルクトゥルス天文暦：マヤ周期のドリームスペル一覧」（49 ページ以降）を提供している。後者の一覧には、11 の太陽太陰・同期周期、および 17 の銀河太陽・同期周期、全体で 28 の周期が含まれている。「13 の月の暦」の純粹な形は、四次元の時間のウェイブスペルあるいは周期定数（13）であり、したがって「13 の月の暦」に従うことで、周期的な時間の創造的な宇宙論が年ごとに再現される（以下、「13 単位の周期定数、ウェイブスペル」、および『アルクトゥルス・プローブ』の付録 320 ページ以降「パルサー・コード」を参照）。

この理解が容易なテキストは、12:60 の時間によって生み出された心の機械化された不規則性とは対照的に、四次元の時間の数学が統合的な宇宙論の全体性であることを強調する。後者は、調和的な尺度基準として、私たちの知覚のより大きな調和を促す。暦は心的な構成物である。不規則な尺度の暦は、不規則な心をつくり出す。反対に調和的な暦は、調和的な心をつくり出す。

「13 の月の暦」の 4 つの規則的な 1 週間 7 日は、銀河スピンの 260 キンの運動でカラーコード化され、調波パターンの組が明らかになる：

1. 水平の列（週）は、色彩と調波を確立する。
2. 垂直の列は、かわるがわる神秘の二つ組か類似の二つ組によってコード化される。
3. 反対の二つ組は、右上から左下に向かう斜めの列でかわるがわるコード化される。

4. 色の家族は、左上から右下に向かう斜めの列のひと連なりをコード化する。

(以下の「根源時間原子」、「ドリームスペルの色彩と調波」を参照)

『13の月の動き』で記述されていないのは、「13の月の暦」、トゥン・ウク「月の周期」あるいは7の力の周期の、マヤの名前およびその他の出典である (Hunbatz Men, Los Calendarios Astronomicos Mayans y Hanab K'u, Mexico, Ediciones Horizonte 1983, pp.208-11; and Hugh Harleston, Jr., El Zodaico Maya, Mexico, Ediciones Diana, 1991, p.34.を参照)。

### 3. 『パカル・ヴォタンのテレクトノン』

実際には「預言のゲーム」とも呼ばれる「パカル・ヴォタンのテレクトノン」は、テレパシーの予備的なテクノロジーである。視覚的、ホログラフィー的な数学と数字の力が四次元の言語であり、時間の法則がテレパシーを13:20の計時周波数に内在する機能であると定義しているため、テレクトノンは太陽系における私たちの役割に本来備わっている、統合的で包括的な数学的宇宙論を示す。垂直的なテレパシー秩序は、同時に多くのレベルで作用するために、多くの数学的に定義される情報レベルもまた同時に機能している。この同時的な機能は、天空調波の座標 (調整・均等化)、すなわちテレパシーを標準化し、時間旅行を可能にする四次元のフラクタルな等価 (※訳注:「フラクタルな等価 (同等)」とは、特定のフラクタル比により、三次元的には異なった存続期間を持つ複数の時間が、四次元的には同一のものともみなされること) を描写する。

本質的にテレクトノンは、「13の月の暦」が調和的な全体性であり、その意識的な使用が人類の中に眠っているテレパシーの隠れた力を熟成し、統合することを示すものである。これは、プレイヤーが「時間を測る」プロセスに関わることによって為される。テレクトノンでは、二つの四次元の時間測定機能が実践され、それによって日ごとに天空調波を定義して読む、二つの異なった情報のレベルがもたらされる。

a) クロノメトリー。歴史的な情報を含んだ52 (13×4) 枚のカードの組を使うクロノトメリーは、時間の二つの一般的なベクトル、すなわちバイオテレパシー的な三次元の時間と、純粋にテレパシー的な銀河の四次元の時間を統一する。そして、

b) シンクロメトリーは、実際には、テレパシー場と本能の場という二つの場の中で、意識の(6つの)さまざまな機能を維持する、(5つの) テレパシー回路として同期のとれた(10の) 惑星軌道の四次元の幾何学である「プレイングボード」を活用する。

クロノメーターのカード配列が7の力によって歩調が定められるのに対して、シンクロメーターは13の動くコマを使う。2つの時間測定機能の毎日の実践を通して、13の月・28日の周期と、260キンの銀河スピンの(5:7の比)の完全な統合が為される。

この導入的なテレパシー・テクノロジーのゲーム的な側面は、「法則の立方体」の数学と幾何学によってもたらされる。「法則の立方体」は、 $16 = (4 \text{ の } 2 \text{ 乗})、(7+9)$  の機能で、毎月7日から22日にかけて生じる。この16日間の法則の立方体のひと連なりは、テレクトノンの霊的な回復力に対する鍵である。4という超意識の数字の力を通して、立方体は素因数の調和的な数の複合のひと連なりを生み出す： $20 (4 \times 5)、28 (4 \times 7)$ 、これが鍵となるテレクトノンの比、 $5 : 7 : : 20 : 28 = 140 = (28 \times 5、20 \times 7) = 5 : 7 : : 260 : 364 = (52 \times 5 = 260、52 \times 7 = 364)$  をもたらす。テレクトノンで惑星軌道に一致したテレパシー回路と数字の宇宙論の本質は、太陽からの距離におけるそれぞれ互いの惑星の軌道比を説明するボーデの法則によってさらに裏付けられる(インストラクション・マニュアル、50 ページ)。また、新しい情報である「16年間のテレクトノンの立方体の法則」も参照のこと。

#### 4. 『ドリームスペル、時間船地球 2013 の旅』

視覚的でホログラフィー的な形を持った『ドリームスペル、時間船地球 2013 の旅』は、四次元の時間の統合的な数学構造を完全に示したものである。数学的な構造の包括的な表現は、投影的な放射幾何学の2つの根源的なマンダラの形をとっている。それは、ドリームスペル・オラクルボード(お告げ盤/存在のマンダラ)とドリームスペル・ジャーニーボード(旅程盤/生成のマンダラ)である。ボードの形は、純粋な(4+1)の第5の力の機能であり、ここで4枚のリーフ(折り込み)は第5の中心の母体から開かれる。この形は象徴であり、その意味は形の中にある。

(4+1)の形の源泉は、第5の力そのものの根源的なマンダラの幾何学、根源時間原子と、その幾何学的な投影、カラーキューブ(色の立方体)である。ドリームスペルの構成要素は、その時間の宇宙論を再現する秩序の中で示される。それは、放射状母体の形の特質を反映する進化的な体系を、形の周期的かつ組み換えの言語によってコード化された開示的な経験幾何学として示す(『時間の力学』、基礎条件 3.9.「幾何学は、四次元の時間がどのようにして三次元の形として組み込まれるか、その方法である」)。

## 時間の構造的な起源

### 根源時間原子とカラーキューブ

第5の力の宇宙論的な起源は、「根源時間原子」と呼ばれる。根源時間原子は、創造的な形の最小限の対称性パターンである。すなわち、中心と4つ(4+1)の方向を持つ構成要素である。根源的な放射状の識別は、言語的な差異に先立ち、またそれよりも包括的である。したがって、(4+1)の放射状のカラーコードの定数は、時間の起源の構造言語を確立する。色は振動しており、心的に感覚に訴え、言葉によって伝達不可能な包括的な質を表現する。根源時間原子の第5の力の放射状の方向を持つ構成要素(4+1)のそれぞれは、次のような関係における色と組をもたらす。

反対、第1組：

赤(右)と青(左) = 反対の関係(1)

白(上)と黄色(下) = 反対の関係(2)

類似、第2組：

赤と白 = 類似の関係(3)

青と黄色 = 類似の関係(4)

神秘、第3組：

白と青 = 神秘の関係(5)

黄色と赤 = 神秘の関係(6)

4プラス1(4+1)の母体：

緑 = (4+1)中心の構成要素 = 母体、第5の力の核(7)

4つの色は、6つの異なった色の関係の3つ組をつくり出す。それが宇宙論的に創造の根源立方体(3つの内的な平面が6面をつくり出す形で広がる)を形づくって広がる。(4+1)の緑は、その立方体の第7番目の内的な点になる。カラーキューブは、4つの色それぞれの3つの色の関係を示し、その4つの色の定数の関係の合計を示す12(3×4)の「色の三角形」によって成り立つ視覚的な正四面体の入れ子状の組をつくり出す。色はさまざまな時間ベクトル・ポテンシャルの振動する周波数の質を表わす。

時間の根源原子とカラーキューブの第5の力(4+1)の構造は、時間と宇宙のすべての宇宙論的

な起源であり、終わりである。この時間原子の二次元的な形が、基本的な放射状母体を成り立たせている。放射状母体は、あらゆるマンダラ・パターンと「投影的な放射幾何学」全般の起源である。四次元の幾何学のすべては、放射状母体の秩序に關与しており、時間ベクトル・ポテンシャルのフラクタル要因として知られる。あらゆる幾何学は普遍的で一定不変である（『パカル・ヴォタンの呼びかけ』、「四次元の時間の数学原理」46～52 ページ、「カラーキューブ」59～62 ページ、テレクトノンの「法則の立方体」、倫理プロジェクトの「法則の立方体」、「心のヘプタゴノン」、「根源立方体部分子」、そしてドリームスペルの「カラーキューブ」を参照）。

## 時間の根源言語

### 1. 13 単位の周期定数、ウェイブスペル

13 の音の定数は、形の幾何学の根源的な正四面体の機能である。時間の中で広がる構造のその基本比の中で、正四面体はそれに固有の 3 つの三角形化したパルサーと 5 つの倍音パルサーの相互作用的な幾何学を脈動させる。根源的な正四面体は、みずからを四次元の時間パルサーとして確立する。正四面体の中の中心点に暗に含まれている倍音の第 5 の比の力 (1:5) により、第 1 の磁気 (1) の点が倍音 (5) の点として次の四面体の点を確立する。同じ比 1:5 の力により、四面体の第 3 の点は (9)、そして四面体の比の拡張を完了させる第 4 の点は (13) になる。したがって、根源的な正四面体の比は： $\{1:5::5:9::9:13=1\}$  である。この比は、ウェイブスペルと呼ばれる再現宇宙論を確立する 13 の音の、動く正四面体秩序として保たれている四次元の時間の周期定数を確立する。

磁気 (1) の、倍音 (5) の、太陽 (5) の、宇宙 (13) の点のあいだにある、その他 3 つの数字のパルサーの可能性が、時間の周期的な宇宙論を確立する。

1. 月の生命パルサー (音 2) は、(不活性- 活性) を分極化し、その存続 (期間) により、律動的な一貫性 (音 6) を獲得し、それみずからを惑星の (音 10) 生物圏形態の現われを仕上げることで完了する (一次元)。

2. 電気の感覚パルサー (音 3) は、生命の感受性を活性化し、その存続 (期間) により、それは共振能力 (音 7) を獲得し、敏感になった生命エネルギーのスペクトルの解放 (音 11) においてみずからを完了する (二次元)。

3. 自己存在の心のパルサー (音 4)、敏感になった生命が心的に形成力を持ち、心の存続 (期間)

により、銀河の無欠性（音 8）を獲得し、形の複合性の結晶秩序（12）としてみずからを完了する（三次元）。

ウェイブスペルの周期定数の 13 の位置が、音と呼ばれるのは、その無条件でありながらエーテル的あるいは振動的な不変性によるものである。時間は周波数である。数字はホログラフィー的な統一である。周期定数は、心的に感覚に訴える。

ウェイブスペルの中で、そこに備わった数字のあいだにある組の表記上の密接な関係は、倍音パルサーの組をつくり出す：

1 ドット	1	•	、	6	—•	、	11	≡•
2 ドット	2	••	、	7	—••	、	12	≡••
3 ドット	3	•••	、	8	—•••	、	13	≡•••
4 ドット	4	••••	、	9	—••••			
バー	5	—	、	10	≡			

13 の音のウェイブスペルは、四次元の時間の周期形態定数である。したがって、それは四次元の時間の言語と宇宙論（0-19=13:20）の原初的な 13 の力の要素を構成している（『パカル・ヴォタンの呼びかけ』、「正四面体と正四面体秩序」50、51 ページ、「ウェイブスペルとパルサー」54~58 ページ、『アルクトゥルス・プローブ』付録 320 ページ以降「パルサー・コード」、および下記を参照）。

## 2. ドリームスペルの色彩と調波（0-19=4+1）

ウェイブスペルの言語は、0-19 コードという四次元の完全な数学的宇宙論の放射状構造の中にある入れ子状の根源的な周期の形である。0-19 のホログラフィー的な表記構造は、(4+1) の第 5 の力のカラーコードの完全な運動を確立するための母体をもたらす。ここで 5 回にわたって動かされる 4 つの色は 20 の可能性  $\{(4+1) \times 4 = 20 \text{ (0-19)}\}$  を生じる。

(4+1)のカラーコード化された力学は、20単位の図像コード言語を確立し、それは純粹に数学的な0-19コードに重ね合わされる。この20単位の図像コード言語「20の太陽の紋章」は、2つの基礎的な宇宙論の定数を確立する。

1. 4つの氏族と5つの地球家族の色彩(4×5)と、
2. 5つの時間セルと4つの色の家族の調波(5×4)

色彩が5単位ずつ(バー、1-4)の4つの垂直の組で特徴づけられるのに対して、調波は5単位ずつの4つの水平的な組である。

4つ(4×5=0-19)の色彩は、バー、1-4のひと連なりによって定義され、第1と第5の位置は共通の色を持つ。したがって、黄色い色彩、赤い色彩、白い色彩、青い色彩、となる。色彩はまた、4つの氏族とも呼ばれる。火の氏族、血の氏族、真実の氏族、空の氏族、である。色彩の水平的な5つの組はさらに次の表記上の指定に応じた5つの地球家族に特徴づけられる。バー=極性家族、1ドット=基本家族、2ドット=中核家族、3ドット=信号家族、4ドット=通路家族。

5つ(5×4=0-19)の調波は、5つの時間セルの垂直のひと連なりを確立し、それぞれの時間セルは4つの色の定数—赤、白、青、黄色—によってコード化されている。水平的な列は、4つの(×5)色の家族を確立する。その色のそれぞれが、5つの時間セルのそれぞれの4つの色のひとつを制御する。

すべての色彩と調波の機能(0-19)は、第5の力のポテンシャル(4+1)の力学である。したがって、(0-19=f{4+1})。

時間の20単位の組み換えによる色彩や調波の図像カラー言語の特別な応用には、次のものが含まれる：人のホロン、惑星ホロン、ドリームスペル創世記、惑星0-19コード。

これらの形に内在する、あるいははっきりと表に現われている実際の数学的な公式は、『パカル・ヴォタンの呼びかけ』の「数学的な証明と実証」(53~84ページ)で説明されている。

## 時間の根源的なマンダラ

### 時間の根源母体あるいは子宮のマンダラ —ドリームスペル・オラクルボード（お告げ盤）

第5の力の時間原子のホログラフィー的な幾何学（放射状母体）は、ドリームスペル・オラクルボードの完全な表現を司っている。4つに折り畳まれたリーフが4つのカラーコード定数を再現し、(+1)の要素（緑）が中心の第5のリーフをコード化している。4プラス1のリーフが5つ（4+1）の時間セルをつくり出し、それが時間の情報生物学を構成している：時間セル1、入力の色。時間セル2、保存の白。時間セル3、処理の青。時間セル4、出力の黄色、時間セル5、母体の緑。それぞれの時間セルは、赤の創始、白の洗練、青の変容、黄色いの熟成という図像以前の数字／色によってコード化されている。

(4+1) 時間セルのそれぞれの中には、4つのパターンの組みがあり、4つの色の定数に応じてコード化されている=4組×5つのリーフ=20 (0-19)。ちょうど4つのリーフが中心の第5のリーフから対称的に開かれるように、20 (0-19) の5つの部分に分かれた第5の力のお告げ（時間ベクトル・ポテンシャルの東）のそれぞれは、それと正確に同じ形になっている。それぞれの時間ベクトル・ポテンシャルの東（お告げ）は、数学的な秩序であり、ここでは20 (0-19) の数字の構成要素のそれぞれが、4つの色のひとつと対応している：1=赤、2=白、3=青、4=黄色、5=赤××20 (0)=黄色。したがって、時間セルごとに4つの時間ベクトル・ポテンシャルの東があり、それぞれが同じ色のパターンを反映しているが、それぞれの時間セルの中の0-19 (20) の数字の秩序（順番）が4つ増すごとに、もしくは差4の関係でそれが生じている。

それぞれのお告げ（時間ベクトル・ポテンシャルの東）は、数字／色によって秩序立てられ、時間セルの中でその場所を定められている。秩序立てられた数字／色は、「運命キン」として知られる。その数字／色によって、それぞれのお告げの中心に来ているそれぞれの運命キンは、設定された数学コードを通してその他3つの色との関係を持つ。

- 左側、反対=運命キンに対して+10あるいは-10
- 右側、類似=運命キン+類似キン=19
- 下側、神秘=運命キン+神秘キン=21
- 上側、ガイド=同じ色=それぞれのお告げの第5の要素、お告げの中心の運命キンと同じ色を持つ5つの可能性のうちの1つで、運命キンそれ自体の可能性を含む。

ガイドの秩序は、13の音の周期定数（ウェイブスペル）のパルサー・コード（※訳注：この場合は「倍音パルサー」のこと）に従う。20（0-19）のお告げ／時間ベクトル・ポテンシャルの束の、13の音の第5の力のガイドの構成要素は、宇宙論的な等式： $0-19=13:20$ を完了させる。

したがって、オラクルボードの5つの時間セルと、時間セルごとの4つ（ $\times 5=20$ ）のお告げあるいは時間ベクトル・ポテンシャルの束は、形の純粋な幾何学における等式（ $0-19=13:20$ ）という、時間ベクトル・ポテンシャルの時間マンダラ形態の母体あるいは子宮を構成する（『パカル・ヴォタンの呼びかけ』の「オラクルボード」、62～65ページ、ドリームスペル、22～26ページを参照）。

#### 時間の根源的な現実化あるいは生成のマンダラ — ドリームスペル・ジャーニーボード（旅程盤）

ドリームスペルのジャーニーボードは、（4+1）の力により、時間の動的な現実化（actualization）を定義する、その最少の{ $0-19=13:20$ }プロセスにおける時間の動きの放射状母体の形成を示す。オラクルボードと共に、4（+1）の根源的な放射状母体が、第5の中心のリーフから4枚のリーフとして開かれ、それは同じように根源的にカラーコード化された、反時計まわりの方向の運動に従う：右のリーフ、赤い東、創始。上のリーフ、白い北、洗練、左のリーフ、青い西、変容。下のリーフ、黄色い南、熟成。中心のリーフ、緑の母体、同期。

時間の実現の力学は、13の音の周期定数、ウェイブスペルの形を使うことにより伝えられる。オラクルボード／時間の子宮のマンダラのそれぞれのリーフは、4つあるポテンシャル（お告げ／オラクル）の5つの部分に分かれた時間セルを構成する放射状形態によって特徴づけられている。これに対して、ジャーニーボード／生成のマンダラのそれぞれのリーフは、ひとつの時間の城を構成する4つの13の音のウェイブスペル（=52キン）を示す。5つの時間セルに相当するのが、5つの時間の城で、ジャーニーボードの5つのリーフに対応し、その機能は前記のとおりである。それぞれの城の4つのウェイブスペルは、同じ4つの部分のカラーコード化に関与する：赤い東のウェイブスペル、白い北のウェイブスペル、青い西のウェイブスペル、黄色い南のウェイブスペル。

20（0-19）の5つの部分のオラクル（お告げ）があるように、20（0-19）の13の音のウェイブスペルがある。13の力は、オラクルの第5の力のガイドの位置では潜在しているだけであるのに対して、ジャーニーボードの生成のマンダラでは完全に表に現われている。したがって、ジャーニーボードは、ドリームスペルの「キンの書」（前記参照）に説明されている260キンの位置すべてを示している。「13の月の暦」によって調整される、さまざまな色の関係—反対、類似、神秘—のすべての動きは、色彩と調波に応じて図像的にコード化され、ジャーニーボードで辿ることができる。こ

れにより、それは天空調波の地図を描くための主要な参照要素となる。5つの時間の城ごとに4つのウェイブスペルの52 (4×13) キンは、その運動の力により、260 (52×5 = {0-19=13:20}) キンの銀河スピン、純粋に四次元的な計時周期を示す。

それぞれの時間の城の視覚的なパターンは、左向きに回転するスワスティカ (サンスクリット語で「スワスティカ」は健康状態の良好なことを指す) の形をしている。この方向づけられたパターンは、物質からの霊の進化の傾向を表わし、究極的には物理平面の非物質化に向かっている。

ジャーニーボードとオラクルボードの双方の形の提示の仕方は、あらゆるマンダラがそうされることを意図しているように、瞑想の対象となりうるもので、それを立方体の形にして行なってもよい。つまり、4枚の折り込みのリーフを広げて立方体の形をつくるように、緑の中心のリーフを背後にして、その他4枚のリーフを広げて、それぞれ隣り同士が互いに直角になるようにする。このようにして、非直線的な時間の放射状母体のホログラフィー的な力が実際に立方体の5つの側面の内部の知覚として、そして第6番目の側面がそれを見る者の「知覚の場」として体験されうる。マンダラは、あらゆるものの本質が心と切り離すことのできないひとつのイメージの形の不変性に含まれているかもしれないということを理解する心を保ち、それを「訓練する」ための構成物である。

オラクルボードもジャーニーボードも共に、時間がマンダラ (放射状母体) であり、それが時間ベクトル・ポテンシャルの知識に応じて現実を形づくる力を持っている<知覚する心>と切り離せないその方向性の力で空間を満たすことを明らかにする (『パカル・ヴォタンの呼びかけ』の「四次元の時間の数学原理」、46~52 ページ、「ウェイブスペル」、54~56 ページ、そして「銀河スピン：ジャーニーボード」、65~67 ページを参照)。

#### 円と四角：銀河の羅針盤と調波インデックス

時間のホログラフィー的・数学的な宇宙論は、放射状母体のドリームスペルの証明—ウェイブスペル、時間原子、時間のカラーキューブ、そしてオラクルボードとジャーニーボードのマンダラー—を通して文字どおり開示される。そして、これらの放射状母体は最終的に円と四角という放射状の平面幾何で完了する。すなわち、銀河の羅針盤と調波インデックスで表わされている。

銀河の羅針盤は、7つの輪の組 (そのうちの5つは動く輪) を通して、260 キンの銀河スピント、364日+1日の「13の月の暦」を調整する18,980通りの全領域を圧縮する。銀河スピント「13の月の暦」は、正確に52年 {=5:7::260:364 (+1) =73 (スピン):52 (年)} ごとに同期す

る。文字どおりデジタル計算器である銀河の羅針盤は、「キンの書」、オラクルボード、ジャーニーボードの情報すべてを、次の比を示す輪の組でコード化する。これらの比は、中心からはじまり外側に広がる形で示されている。

1. 中心の4つの色の調波ダイヤル=1:65
2. 5つの色の城の輪=1:52
3. 20のウェイブスペルの輪=1:13
4. 20キンの日の輪=1:1
5. 13の音の白い輪=1:1
6. 太陽の音のひと連なりを調整する黄色い輪=1:20
7. 関連日付の緑の輪=1:20

羅針盤の裏側は、木の年輪とも比べられるような52年ごとの輪の組が拡大する形で、52年の太陽銀河同期周期に応じた同期の日付を図示的に表現している。

調波インデックスの正方形のような四角の母体は、銀河の羅針盤の円の母体を補うものである。ツオルキン（以下の『マヤン・ファクター』、『アース・アセンディング』参照）に基づく調波インデックスは、純粹に四次元的なツールである。文字どおり13×20（=260キン）の数の母体、完全な13:20の四次元的な数学コードは、調波インデックスの中で熟慮される。数学的な特性には次のものが含まれる：

1. 5つの時間セル（右側）（ $5 \times 4 = 20$ ）があり、これが
2. 65調波 { $65 \times 4 = 260 = (0 - 19 = 13 : 20)$ } をつくり出し、調波33を除くそれぞれの調波は、次の放射状の組を構成する：
3. 32の逆の（神秘の力の）調波（ $32 \times 2 = 64$ 、+調波33=65）
4. 13の調波行程、5調波あるいは5つの時間セル、1調波行程につき20キン=260キン
5. 5つの城（前述）（ $52 \times 5 = 260$ キン）
6. 20のウェイブスペル（×13の音=260キン）
7. マヤの機織り／二項三つ組（バイナリー・トリプレット）の姿をつくり出す、52の銀河の活性化の正門の逆対称性（『マヤン・ファクター』、『アース・アセンディング』参照）。

調波インデックスによって示される13:20の母体の純粹性は、それを普遍的な物差しあるいは四次元の尺度基準にすることを可能にし、天空調波の領域を構成する時間ベクトル・ポテンシャルの研

究およびその源泉（出典）の必須条件である。

円の羅針盤と四角の調波インデックスの双方を熟慮する際のポイントは、放射状母体のポテンシャルが、ホログラフィー的にそれみずからをフラクタル的に包み込まれたさまざまな形でコード化することであり、そのそれぞれが高度な情報圧縮を構成していることである。羅針盤と調波インデックスの双方は、その形と情報の全体性において完全な宇宙論  $\{0-19=13:20\}$  を再現する。

## 5 『パカル・ヴォタンの呼びかけ、時間は四次元である』

当初、『それみずからの次元から見た時間の論文』として書かれた『パカル・ヴォタンの呼びかけ』は、四次元の数学原理の鍵となる概論であり、特に実際の時間の操作コードおよび応用天空調波の正しい数学的な理解の基礎である『ドリームスペル、時間船地球2013の旅』の構成要素との関係が述べられている。

三次元の科学や数学と、四次元の時間とのあいだにある相違が、自然の進路からの大幅な逸脱、すなわち「自然からの疎外」と言及される現代科学一般に対する批評と分析の基礎として詳述される。疎外の根源は、自然の秩序と切り離された不規則な尺度と計時周波数に従ってきたことによる。逸脱そのものの分析が、四次元の時間の科学や数学の正しい理解を喚起する。エントロピー的な三次元の体系の代わりに据えつけられるのが、「惑星全体系アプローチ」であり、それが統一的な第4番目の前提の中で、3つの基本的な前提を提示する。

### 3 プラス1の惑星全体系の前提

1. 精神物理的な前提、文字どおり「心と身体」の相関性が心の第一義性と、知覚する者の場と知覚されたものの不可分性を想定する。これが統合的な数学の必要性を確立する。

2. 普遍美(学)的な前提、 $T(E) = Art$ 、精神物理的な前提の拡張された説明に内在される私たちの多重感覚秩序に一致する世界が、実際にはさまざまな比や数学的な割合の調和であること。

3. マヤの前提、第3の前提は、マヤ文明の主要な貢献要素が、ゼロを基礎においた位取りの順列に基づく、20の数え方(0-19)コードの20進法数学だったことを認める。本来的に精神物理的な前提および美的な前提を調和的に補う、このマヤの前提は、最初の2つの前提に欠けていた決定的な数学的説明を提供する。

4. 惑星全体系の前提は、先の3つの前提の統合的な概論で、惑星秩序が宇宙的に統一された全体秩序を示す際に最少限必要な要素を満たす、統合的で非還元的な全体系の完全な詳述が含まれる。生物圏は、時間の原理を理解し、応用するにあたっての、直接的な全体系ホロコズムである。惑星全体系の前提は、生物圏と共振場(重力場、電磁場、生命精神場)の統一原理を想定する。これら三つの共振場は、「生物圏から精神圏への移行」の進化的原理の中で互いに互いを完全にする(『倫理プロジ

エクト』、『アース・アセンディング』、『時間の力学』、そしてヴェルナツキイ著の『生物圏、生物地球化学の諸問題(監)』を参照)。

時間の法則とそれに付随する原理のすべての目的は、生物圏の前提—かつて無意識だったことを意識化する、そして精神圏へと進展すること—の成就以外の何ものでもない。『時間の論文』の数学原理を示すことには、V. I. ヴェルナツキイによって創始された生物圏の前提を科学的に完了させるというただひとつの目的があるだけである。

四次元の時間の数学原理の要約：

●放射状母体：今を中心にして、自己発生的で、放射状に整数パターンの組と結びついており、その運動の力は、

- フラクタルで、対称的な一定不変性を次の（比による）スケールの範囲で維持する能力がある。
- 比、情報を持つ割合の定数。
- 正四面体、幾何学的な秩序の最小の基礎であり、同時に最大の情報能力を持つ。周期的な 13 の音の定数あるいはウェイブスペルとして時間の中に構築される。

●プラスワンの要素：どの  $n$  に対しても、そこには常に  $n + 1$  がある。この要素は、あらゆる静止状態を乗り越え、始まりも終わりもない渦の連続体としての循環の原理を確かなものとする。

これらの四次元の時間の数学原理の論証や証明は、『ドリームスペル、時間船地球 2013 の旅』の構成要素を数学的に描写することで、一覧される。このようにして、『ドリームスペル』は、四次元の時間の数学的な体系および宇宙論を自己参照する「道具箱」としてとらえられる。『ドリームスペル』の中に含まれる論証や証明には次のものが含まれている。

- 0- 19 コード（放射状母体）
- ウェイブスペルとパルサー（正四面体の原理、フラクタル、比）
- カラーキューブ、調波、時間セル（正四面体の原理、フラクタル）
- 色彩あるいは倍音の第 5 と、オラクルボード（放射状母体、 $4+1$  の要素、比）
- 銀河スピン：ジャーニーボード（放射状母体、ウェイブスペル、フラクタル、比）
- スペクトル・フラクタル（フラクタルの特別な例、色彩、 $4+1$  の要素）
- 銀河の羅針盤と調波インデックス（放射状母体、比）
- 二項<sup>バイナリー</sup>ペンタード（倍音の第 5 の特別な応用、プラスワンの要素、比）

統合と応用：精神圏の到来

四次元の時間の数学原理を、『ドリームスペル』の構成要素あるいはそのツールの具体的かつ実現可能につくられた形で提示したあとに、『時間の論文』は、四次元の時間の原理の論理から、精神圏の到来に関する一般的かつホロノミー的な説明へと進展する。このようにしてヴェルナツキイによって仮定された生物圏の前提、「生物圏から精神圏への移行」は、生物圏の不活性 (SO<sub>2</sub>) と有機 (CO<sub>2</sub>) の構成要素の対応と類似する、惑星ホロン (=0- 19) と人のホロン (=0- 19) と対応した形で、その概要を完了させる。

0- 19 コードの放射状論理のフラクタルな置き換えは、全体系の「惑星」と全体系の「人」のあいだのフラクタルな等価を結果として生じる。これがホロノミー的に正しいのは、ホロノミクスが「全体は部分にあり、あらゆる部分は神聖である」と述べていることによる。20 の手足の指を持ち、四肢と 5 つの中心を持つ人間と、惑星ホロンの正四面体- 正二十面体構造の 1 対 1 の対応関係は、「生物圏から精神圏への移行」をはじめめるための最も深遠な意味を示すひとつの事実である。

人のホロンのさまざまな要素と対応する、惑星ホロンの中にある惑星の三つの共振場を調整するにあたって、時間圏が仮定される。時間圏は、テレパシー的に活性化され、すべてを統一する時間の法則に応じて、あらゆる秩序と同期する惑星全体系の計時制御装置である。時間圏は、惑星全体系の記憶倉庫であり進化プログラム・ガイドである、サイバンの一機能であり、またその別な用語でもある。「生物圏から精神圏への移行」の目的は、意識的に時間圏を活性化することであり、それは「サイバンのプレートの開示」としても知られる（『倫理プロジェクト』を参照）。

倍音の第 5 の公式とヴェルナツキイの <sup>バイオマス・コンスタント</sup> 生物量定数、精神圏への移行

意識的に 13 : 20 計時周波数の中に再び人類の <sup>バイオマス</sup> 生物量を乗り込ませる生物地球化学的な目的は、究極的には不活性周期秩序 (SO<sub>2</sub>) と有機周期秩序 (CO<sub>2</sub>) のバランスをとることにある（『時間の力学』第 7 項～第 10 項を参照）。

最初の段階には、惑星ホロンと人のホロンのあいだの対応関係を意識的に活性化することが含まれる。惑星ホロンの (0- 19) は、三つの共振場と対応する三つの織物によって構成されている。

1. 重力場 = 4 つの根源人種 (色の家族)、左下から右上に動く。

2. 電磁場=4つの氏族（色彩）、左上から右下に斜めに動く。

3. 生命精神場=5つの地球家族、5つの帯（極性家族—北極、基本家族—北半球の温帯、中核家族—赤道地帯、信号家族—南半球の温帯、通路家族—南極）を水平に動く。

※訳注：以上の3つの共振場の対応関係は、『パカル・ヴォタンの呼びかけ、時間は四次元である』（旧題：『時間の論文』、日本では未刊）の記述に基づくものだが、近年（1999年～）、ヴァルム・ヴォタン（ホゼ・アグエイアス）は、異なった対応関係を提示している。それは、＜重力場=5つの地球家族＞、＜電磁場=4つの根源人種（色の家族）＞、＜生命精神場=4つの氏族（色彩）＞というものである。

「3つの場と一連の13キンのウェイブスペルで脈動する二十面体の織物の相互作用は、サイバーク、すなわち時間圏の共振情報“保存倉庫”を生み出す」（『パカル・ヴォタンの呼びかけ』109ページ）。この三重になった織物は、ひとつになって時間圏によって活性化されるが、それは周期的なウェイブスペル定数の13の音の波動のひと連なりによって動かされ、惑星ホロンと太陽銀河計時周波数を同期させる。

太陽銀河計時周波数は、5:7の比によって表現される。この比は、 $260:364=5:7$ の中にある、銀河周期（5）に対する太陽周期（7）を同期させる。また逆に、 $52年（7）:73スピン（5）=7:5$ ともなる。この5:7の比によって定義される鍵となる複合条件は、52（52週間、52太陽年）と73（73スピン、73倍音色彩）である。52週間に等しい倍音色彩（ $5 \times 73 = 7 \times 52 (+1)$ ）の数字を定義する73が、生物量定数の数字である。

倍音色彩は、4ドットの通路地球家族によって定義される。通路地球家族は、13の月の周期と太陽銀河年を磁気の月1日（旧式の暦で7月26日）に同期させる。倍音の第5の規則性が、倍音色彩により生物量定数の最小限の基礎周期、73を維持する。そのため、人のホロンと、この規則化された倍音の第5の動きの同一化が、惑星ホロンと人のホロンを関与させるための鍵となり、それにより「生物圏から精神圏への移行」が確立される（『倫理プロジェクト』、「生物量定数の73色彩：人のホロンと惑星ホロンを調整する」、21～24ページを参照）。

倍音色彩は、生命精神場の機能なので、5つの地球家族の動き、人のホロンと惑星ホロンの対応は、毎日の1対1のキンの対応を通して達成される。その対応は、惑星ホロンの地球家族と、人のホロンの精神物理的なセンター（チャクラ）との関係である。この同一化が、人とサイバーク、また不活性

(SO<sub>2</sub>) と有機 (CO<sub>2</sub>) のあいだの意識的なつながりを確立し、それが「生物圏から精神圏への移行」と時間圏の進化的な自己制御装置であるサイバンの出現を早める。

ヴェルナツキイの生物量定数：時間における等式

生物量定数 {73 (5)} の機能の論理的で数学的な表示全体は、37 の基礎条件で設定されている (114 ~124 ページ)。この基礎条件の組は、「生物圏から精神圏への移行」に、前提となる数学的な定義をもたらし、それと共に時間の法則を意識化することにより、この仮説的な進化の移行の完了のための、実際的で同じくらい正確ではっきりとしたクロノロジー (年表、年代表記) あるいはタイムテーブルを確立する。生物量定数 {73 (5)} の 37 の基礎条件は、ヴェルナツキイによって説明され定義された生物圏の諸原理すべてを統一し、完了させる。生物圏の鍵となる原理すべてを論理的かつ数学的に正確なものにすることで、生物量定数の 37 の基礎条件は、真に客観的な宇宙論の必要性すべてを満足させる。それは、数学的に表現可能であり、その表現の数学が宇宙論を再現するからである。

付録 (125~129 ページ) は、「13 の月」およびハアブあるいは 18 ウィナル+1 (5 日) ワイエブの太陽周期とのフラクタルな関係で、73 の年間倍音色彩のインデックスおよび天文暦をもたらす (ハアブ:  $18 \times 20 = 360 = 72$  倍音色彩、ワイエブ = 73 番目の倍音色彩、前述の『パカル・ヴォタンのテレクトノン』を参照)。

6. 『アルクトゥルス・プローブ、現在進行中の物語と報告』

「真実の科学はすべて、応用宇宙論である」

(『アルクトゥルス・プローブ』、付録：パルサー・コード、322 ページ)

20 (=0-19) の「時間の部族」としてコード化された時間の宇宙論の神秘的あるいは歴史的な次元を組み立てる、想像的な反射 (反映物) として書かれた『アルクトゥルス・プローブ』は、いまや人類とその生物圏の中にコード化されている銀河記憶の進化の次元間ヴィジョンを創造する。

本書『数学原理』における、この想像的なテキストの鍵となる価値は、付録の「パルサー・コード」(320~344 ページ) にある。パルサー・コード (前述：「ウェイブスペル」を参照) は、三次元の領域の説明に制限されるというより、次元間の科学的宇宙論全体を想定する。その中には、銀河ビームの電氣的な組成やラングの性質が含まれる。ラングとは、根源的な不調和脈動あるいは「音」からの生命の発生的な基礎で、それみずからの調和的なフィードバックを発生させる。

ラングの根源的なフィードバック処理は、4つの「音」として組み立てられる。それは、CSR (中央恒星放射子) と呼ばれる特定の次元間の恒星点から放射される、ある種の重力ビームの本質を構成している。4つの原初の (第一義的な) 「音」は次のとおりである。

●磁気の (1)、四次元の音 (根源的な投影幾何学、正四面体の比の力によって確立される根源的な、引きつける音)

●月の (2)、一次元の音 (根源的・不調和の分極化)

●電気の (3)、二次元の音 (根源的・調和の活性化)

●自己存在の (4)、三次元の音 (根源的な分極性- 電気の形としての統合)

これら4つの音あるいは次元、重力の建築ブロックは、自発的に正四面体の比  $\{(1:5)::5:9::9:13=1\}$  の力によって、次のものを発生させる。

●倍音の (5)、五次元の音、重力ビームの「推進」力。それは磁気の音と共に、そのビームの建築ブロックを確立する。

ひとたび確立されると、5つの原初の音の相互作用的な動きは、銀河秩序、すなわち音6から音8までをつくる形で拡張する。それは、倍音パルサーの力により、最初の3つの次元を増幅する。第9番目の音は、四次元のパルサーの太陽 (恒星) の音への倍音拡張となり、それはあらゆる恒星の根源

的な核として、銀河秩序  $\{(1:5::5:9) = \text{磁気の+倍音の} = \text{太陽の}\}$  を完了させる。

太陽の音 (9) から、最初の 3 つの次元の音のインパルス<sup>の</sup>のステップダウンがあり、そのビームを「惑星レベル」に変換する。第 12 番目あるいは水晶の音は、現象的な現実との関係における形の最終的な複合化と高次の心の状態の双方を表わす。13 番目あるいは宇宙の音  $\{(1:5::5:9::9:13) \text{ 磁気の+倍音の+太陽の} = \text{宇宙の}\}$  は、それまでの音すべてを包括し、自発的な磁気の音の再現へとビームの音の力を輸送する。そこからそのプロセスはみずからを再生させるのである。この周期的な組み換えの音宇宙論は、重力比 (13:20) を等式、 $T(E) = A r t$  の中で、普遍定数あるいは自然の計時周波数 (T) として保つ。

時間のウェーブスペルとして発生した、260 キンの銀河スピンにつき最小で 20 (=0-19) ある (13:20 の比) で、パルサー宇宙論は銀河電気の発生のためにパルサー調波として精巧に形づくられる。7 つのタイプの放射子<sup>とディオン</sup>で構成される銀河電気あるいは宇宙電気は、次元間をつなぎとめる流動体である。パルサーの目的は、このタイプの放射子を活性化し、それらを解放することにある (以下の『倫理プロジェクト』、「心のヘプタゴノン」を参照)。

銀河スピンひとつにつき 65 (5×13) 調波あるいは 5 つの城があり、それぞれの城の中には音の調波の 13 種類がある。音の調波の 13 種類のそれぞれは、音の数字によって区別される。音の数字のひと連なりは、二つの数字の差、9 と 4 によって特徴づけられる (9+4=13、9-4=5)。宇宙の 13 と倍音の 5 は、65 (13×5) のパルサー調波の可能性の幅を確立する鍵となる音である。パルサー調波の最初の 4 つのタイプ (1-4) は、差が 9 の降順インターバル数字周波数に特徴づけられる。第 4 番目と第 5 番目の音の調波のあいだは、昇順インターバル数字周波数が差の 4 となる。この 4 が、9 つの位置 (4-13) のあいだのインターバル周波数を特徴づける。宇宙の (13) 音の数字 (46) と、磁気 (1) 音の数字 (37) の差は、4 つある差 9 の最初である (パルサーとパルサー調波のタイプの完全な説明とインデックスおよび音の数字のひと連なりのさまざまな種類の内訳については、326~333 ページを参照)。

「パルサーと倍音パルサーの周波数数字は音の合計に基づき、また音は太古のラングの変換された現われであるために、これらはパルサー調波周波数情報の使用への重要な手がかりとなる。

それぞれのラングにひとつの儀式があるとするなら、どれくらい多くのラングをあなたがたは儀式化できるか？」 (333 ページ)

5 つの時間の城  $\{52 \text{ キン} \times 5 = 260 = 13:20 (0-19)\}$  のどの城に対しても、そこには 4 つのウェ

イブスペルがあり、それぞれは建築ブロックの音の調波のひとつで始まる。これら4つの調波は、5つの時間の城のそれぞれの中にある宇宙電気の基礎を確立する2つの反対の組へと小分割される。特定の城の4つのウェイブスペルを確立する、これら調波の反対の組の公式は次のようになる：

赤い東：自己存在の+  
青い西：月の=基盤  
白い北：電気の+  
黄色い南：磁気の=力場

※フラクタル共振（天空調波）、レディオソニックス、物理的な転移を含む、パルサー・テクノロジーの「暗示する内容と応用」の完全な詳細については、333～341 ページを参照。この資料は完全に理論的で論理的な天空調波の構成物の詳細について述べた『時間の力学』によって補われる。

最後に（341～344 ページ）、ウェイブスペル幾何学を構成する4つのパルサーと5つの倍音パルサーにある、テレパシー共振の26のラインを確立する26のパルサー交点の説明と一覧がある。軸となる交点のポイント（the axis vertice points）のあいだの差と合計は、周波数数字のインターバル（間隔）をつくりだす。13のウェイブスペルの位置の音の周波数の合計は364（13×28）、合計26のパルサー交点の合計もまた364—「13の月」の1年の日数である。この情報は、『パカル・ヴォタンのテレクトノン』を指し示し、またそれによって補われる。13の月・28日の回路を日ごとのクロノメトリーとシンクロノメトリーを観察するために、テレパシー的な「スイッチボード」として表示することにより、テレクトノンは、パルサー・コードが共時性秩序の意味と動きを特徴づける天空調波の中でそれみずから演じることを可能にする。

『アルクトゥルス・プローブ』の用語解説（305～319 ページ）も、深い意義を持った今に中心を持つ四次元および五次元の宇宙論の描写を深めるのに役立つ。その宇宙論は、本質的に数学的な性質を持つ。

今後の注釈は、以下の出版物のために続けられる予定である。

7. 『時間の法則の発見』
8. 『時間の力学：260 の基礎条件』
9. 『倫理プロジェクト』
10. 『アース・アセンディング』
11. 『マヤン・ファクター：サブテーマ、時間と生物圏』
12. 『時間の物語、亀と木の物語』
13. 『生物圏』
14. 『地球生物学における諸問題(監)』

『16年間のテレトノンの法則の立方体』を受け取る前に、  
倫理プロジェクトの教師、ヴァルム・ヴォタンによって差し出される  
時間船地球 2013 の舵取りの塔

## 四次元の数学原理

---

白いスペクトルの魔法使いの年・月の月6日 KIN 187 (2003年8月28日) 発行

著者： ヴァルム・ヴォタン (ホゼ・アグエイアス)

訳者： 高橋徹

協力： (旧) パン・ジャパン

編集・発行：PAN ブックレット帯広

\* 「PAN 日本語翻訳チーム」による訳語の見直しなどにより、文章の語句を変更することがあります。